

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
32130	応用統計手法	小野功一郎			2	選択	1・2前期

科目の概要

情報社会において不可欠な「統計的思考」と、AIやビッグデータ活用につながるデータ処理の基礎を学びます。データの種類やグラフ化といった記述統計から、相関・回帰分析を用いた予測モデルの構築までを体系的に習得します。理論だけでなくExcelを用いた実習を重視し、実際のビジネスデータ（売上、顧客アンケート等）を分析することで、データを客観的に読み解き、論理的な課題解決や施策提案につなげる実践力を養います。ディプロマシーの②③④また、授業内ではNotebookLM等の生成AIツールを積極的に活用し、自ら課題を解決する能力を養います。これにより、ディプロマ・ポリシーの⑤に相当するAI活用力を身につけます。

学修内容	到達目標
① データの種類と尺度：質的変数・量的変数の違いと、4つの尺度（名義・順序・間隔・比率）を理解し、データを正しく分類・整理する手法を学ぶ。 ② データの可視化：ヒストグラム、棒グラフ、散布図など、データの特性や分析目的に応じた適切なグラフ表現とExcelでの作成技術を習得する。 ③ 時系列データ分析：売上推移などのデータから、移動平均法や季節変動指数を用いてトレンド（傾向）を把握し、将来値を予測する。 ④ データの分布と代表値：平均値・中央値・最頻値の違いを理解し、箱ひげ図（四分位数）を用いてデータの分布形状や偏りを視覚化する。 ⑤ ばらつきに関する統計指標：分散と標準偏差を計算し、データが平均からどの程度散らばっているか（リスクや品質の安定性）を数値で評価する。 ⑥ 異常検知と相対評価：変動係数による異なるデータ間のばらつき比較や、正規分布・3シグマ法を用いた外れ値（異常値）の検出方法を学ぶ。 ⑦ 相関分析：2つの変数間（例：気温と販売数）の関係性の強さを「相関係数」で数値化し、散布図を用いて視覚的に確認する。 ⑧ 重回帰分析：1つの要因から結果を予測する式（回帰式）を導き出し、決定係数を用いてモデルの精度を評価する予測の基礎を学ぶ。 ⑨ 多変量解析（重回帰分析）：複数の要因（天気、広告費、曜日など）が結果に与える影響を同時に分析し、数値化1類（ゲーム変数）を用いて質的データもモデルに組み込む。 ⑩ ビジネスシミュレーション：構築した統計モデルを用いて、「広告費を増やせば売上がどうなるか」等のシミュレーションを行い、根拠ある施策を立案する。	① データリテラシー：データを質的・量的変数に正しく分類し、それぞれの特性に合った集計・分析手法を選択できる。 ディプロマシーの②③ ② グラフ作成能力：伝えたいメッセージやデータの性質に合わせて、誤解を与えない適切で見やすいグラフを作成できる。 ディプロマシーの②③ ③トレンド把握：時系列データから一時的な変動（ノイズ）と長期的な傾向（トレンド）を区別し、将来の動向を予測できる。 ディプロマシーの②③ ④ 分布の理解：平均値だけでなく、箱ひげ図等を用いてデータの分布全体を捉え、外れ値や偏りを指摘できる。 ディプロマシーの②③ ⑤ リスク評価：標準偏差を用いてデータの「ばらつき」を定量化し、ビジネスにおけるリスクや安定性を客観的に評価できる。 ディプロマシーの②③ ⑥ 客観的判断：感覚や経験だけでなく、確率や統計的有意性（P値など）に基づいて、結果が偶然か必然かを判断できる。 ディプロマシーの③④ ⑦ 関係性の発見：相関分析を用いて、一見無関係に見える事象間の関連性を発見し、ビジネスのヒントを得ることができる。 ディプロマシーの③④ ⑧ 予測モデル構築：重回帰分析を用いて、過去のデータから将来の数値（売上や需要）を予測する式を作成できる。 ディプロマシーの③④ ⑨ 複雑な事象の分析：重回帰分析を活用し、複数の要因が絡み合う複雑なビジネス課題に対して、各要因の影響度を特定できる。 ディプロマシーの③④ ⑩ 意思決定支援：統計解析の結果（エビデンス）を基に、説得力のある企画書や改善案を作成し、合理的な意思決定を促すことができる。 ディプロマシーの③④

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	自らの意志と責任で学習を進め、あらゆる事を自分事として捉えていくことができる。
	働きかけ力	困難があっても先生や友人などに積極的に質問・助言を求め、自ら解決に向けて努力できる。
	実行力	頭で考えるだけでなく、実際に行動に移しトライアンドエラーを実践できる。
考え抜く力	課題発見力	得られた情報から課題を発見し、何が原因であるのか創造力を発揮し分析を行うことができる。
	計画力	行動を起こす前にビジョンを明確にし、タスクを細分化したうえで次の行動を決められる。
	創造力	レポートは、習得した知識・スキルを活用して創造力を発揮して書くことができる。
チームで働く力	発信力	発信力を発揮してパワーポイントを活用して発表することができる。
	傾聴力	話をよく聴き、質問をしてさらに、理解を深めることができる。
	柔軟性	一度決めた目標であっても、変更の必要性があれば柔軟に対処できる。
	情況把握力	グループ活動ではメンバー、自身の立ち位置を考えて行動できる。
	規律性	遅刻・無断欠席など、学修意欲の欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
ストレスコントロール力	生活のなかに適度に休む時間を設け、バランスよく学習を進めることができる。	

テキスト及び参考文献

テキスト：授業内配布（NotebookLMの活用をします）本講義では指定の市販テキストは使用せず、毎回の授業で配布する資料（レジュメ、スライド、各種データ等）をテキストとして使用します。その際、配布資料を単に読むだけでなく、生成AIツールである『NotebookLM』に読み込ませて活用します。配布された複数の資料やデータをAIに統合的に分析させることで、難解な用語の理解から、情報に基づくインサイト（洞察）の抽出、根拠（エビデンス）に基づいた論理的な課題解決や企画立案まで、AIと協働しながら実践的な学習を進めます。

参考文献：日本統計学会公式認定 統計検定3級対応 データの分析 日本統計学会編 東京図書

他科目との関連、資格との関連

DS・AIパスポート資格の必修科目になります。

学修上の助言	受講生とのルール
統計学の基礎知識があると理解しやすいですが、本講義では基本的な概念から丁寧に説明します。授業では理論だけでなく、実際のデータを用いた演習を多く取り入れるので、PCを使った実習にも積極的に取り組んでください。統計的思考は様々な分野で応用できる重要なスキルです。日常生活やニュースで見かける統計情報にも注目し、批判的に考察する習慣をつけると学習効果が高まります。Excelなどの統計ソフトの基本操作にも慣れておくとうれいでしょう。また、DS・AIパスポート資格の取得を目指す方は、本科目で学ぶ内容が試験範囲に含まれますので、しっかりと理解を深めてください。	授業の内容を理解し、積極的に取り組む姿勢がみられること。 予習・復習をする時間をとること。 授業の進展具合等によりシラバスを変更する場合があります。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①	⑥		
			②	⑦		
			③	⑧		
			④	⑨		
			⑤	⑩		
	小テスト	0	①	⑥		
			②	⑦		
			③	⑧		
			④	⑨		
			⑤	⑩		
	レポート	30	①	⑥		毎回の振り返りの記述：各授業の最後に振り返りを書いてもらいます。講義等から自分の行動を振り返り、次に活かしていくにはどうしたらよいか考えて記述します。課題の完全提出：課題として出された提出物は、しっかりと書いてすべて提出することが求められます。pisa型学力の評価：知識と技術を獲得し、それを活用して課題を解決できたかどうか（pisa型学力）も評価の対象となります。データの考察と発表：演習で行った結果をデータ化して考察し、その結果についてわかりやすく発表することが評価されます。
			②	⑦		
			③	⑧		
			④	⑨		
			⑤	⑩		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	⑥	各授業の最後には、振り返りを書いてもらいます。講義などから、自分の行動を振り返り、次に活かしていくにはどうしたらよいか考えてください。 ・課題として出された提出物はしっかりと書いてすべて提出すること。 ・知識と技術の獲得とそれを活用し、課題を解決できたかどうかのpisa型学力も評価する。 ・演習で行った結果をデータ化し、考察する。 ・演習の結果についてわかりやすく発表する。 pisa型学力の評価：授業を通じて「知識と技術の獲得とそれを活用し、課題を解決できたかどうか」**という実践的な活用とアウトプット：単に知識を覚えるだけでなく、演習で行った結果をデータ化して考察することや、その結果についてわかりやすく発表することが求められます。 「実際のビジネスデータ（売上、顧客アンケート等）を分析することで、データを客観的に読み解き、論理的な課題解決や施策提案につなげる実践力を養います」と記されています。つまり、授業で学ぶ相関・回帰分析などの統計手法（知識・技術）をただの暗記で終わらせず、現実の課題解決のための根拠（エビデンス）として論理的に使いこなす統合的な能力が「pisa型学力」に該当します		
		②	⑦			
		③	⑧			
		④	⑨			
		⑤	⑩			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	⑥	主体性：自らの意志と責任で学習を進め、あらゆる事を自分事として捉えていくことができる。 働きかけ力：困難があっても先生や友人などに積極的に質問・助言を求め、自ら解決に向けて努力できる。 実行力：頭で考えるだけでなく、実際に行動に移しトライアンドエラーを実践できる。 課題発見力：得られた情報から課題を発見し、何が原因であるのか創造力を発揮し分析を行うことができる。 行動を起こす前にビジョンを明確にし、タスクを細分化したうえで次の行動を決められる。 計画力：レポートは、習得した知識・スキルを活用して創造力を発揮して書くことができる。 創造力：発信力を発揮してパワーポイントを活用して発表することができる。 発信力：話をよく聴き、質問をしてさらに、理解を深めることができる。 傾聴力：一度決めた目標であっても、変更の必要性があれば柔軟に対処できる。 柔軟性：グループ活動ではメンバー、自身の立ち位置を考えて行動できる。 規律性：遅刻・無断欠席など、学修意欲の欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。	
			②	⑦		
			③	⑧		
			④	⑨		
			⑤	⑩		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>A：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポートは期限までに提出でき、字数や記載内容も良く書けている。</li> <li>・発表ではわかりやすく、人に伝えようと工夫を凝らしている。</li> <li>・毎回、授業でおこなうワークに積極的に取り組むことができる。</li> </ul> <p>S：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aの基準に加えて、さらに学ぶ姿勢も良く、地域活動などではリーダー的な役割をしてグループをまとめようと努力している。</li> <li>・授業で学んだことをさらに発展させるために自身で統計検定に挑戦することができる。</li> </ul>	<p>C：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポートは期限までに、概ね提出できた。</li> <li>・課題提出、発表では、多くの助言のもと進めていた。</li> </ul> <p>B：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について理解でき、取り組んでいた。</li> <li>・ワークに真面目に取り組むことができる。</li> <li>・課題のレポートは期日を守り提出できている。</li> </ul>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	データの種類と尺度(質的変数・量的変数) データ分析の基礎となる「質的変数」と「量的変数」の違い、および4つの尺度(名義・順序・間隔・比率)について学ぶ。Excelを用いて度数分布表を作成する演習を行う。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	データの種類(質的・量的)と尺度を正しく分類でき、度数分布表を作成してデータの概要を把握できる。	予習:教科書第1章を読み、身近なデータ(性別、身長、気温など)がどの種類に当てはまるかを考えておく。 復習:演習課題(変数の分類、度数分布表作成)を完了させ、尺度の違いを整理する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
2	グラフ表現とデータの可視化 データの特性(質的・量的)や分析目的に適したグラフ(棒グラフ、円グラフ、ヒストグラム、散布図、折れ線グラフ)の選び方と、Excelでの作成方法を学ぶ。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	データの目的に応じた適切なグラフ(構成比なら円グラフ、推移なら折れ線など)を選択し、Excelで見やすく作成できる。	習:ニュースやWebサイトで見かけるグラフの種類と、それが何を伝えているか(比較、推移、割合など)を確認しておく。 復習:授業で作成した各グラフの特徴を振り返り、不適切なグラフ選択(3Dグラフの乱用など)をしないよう要点を見直す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
3	時系列データの分析と予測 時間の経過に伴うデータの変動要因(トレンド、季節性、ノイズ)を理解する。移動平均法や季節変動指数を用いてデータの傾向を把握し、将来(来期の売上等)を予測する手法を学ぶ。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	移動平均を計算して長期的なトレンドを把握し、季節変動指数を用いて基本的な将来予測値を算出できる。	教習予習:平均値の計算方法を復習し、「前年比」や「季節変動」という言葉の意味を調べておく。 復習:演習で行った移動平均の計算と売上予測のプロセスを再確認し、章末問題に取り組む。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
4	データの分布と箱ひげ図 データの分布を視覚化する「箱ひげ図」の作成方法を学ぶ。四分位数(第1・第3)、四分位範囲(IQR)を計算し、外れ値を統計的に検出する手法を習得する。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	データを4等分する四分位数を理解し、箱ひげ図を作成してデータの散らばりや外れ値を判別できる。	予習:教科書第4章を読み、「中央値」と「平均値」の違い、および「四分位数」の定義を確認しておく。 復習:演習で行った身長や降水量のデータを用いて、箱ひげ図の各要素(Q1, Q3, IQR)を再計算する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
5	データのばらつき1(分散・標準偏差) データの散らばり具合を数値化する「分散」と「標準偏差」の概念を学ぶ。平均値だけでは見えないデータの特徴(リスクや品質の安定性など)を捉える。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	分散と標準偏差の意味を説明でき、Excel関数(VAR.P, STDEV.P等)を用いて正しく算出できる。	予習:教科書第5章の前半を読み、なぜ「平均」だけでなく「ばらつき」を見る必要があるのかを考えておく。 復習:演習問題(クラス別テスト点数比較など)を通じて、標準偏差が大きい場合と小さい場合の違いを整理する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
6	データのばらつき2(変動係数・外れ値判定) 単位の異なるデータのばらつきを比較する「変動係数(CV)」や、標準偏差を用いた「外れ値の判定基準(3シグマ法)」、データの「標準化(z値)」を学ぶ。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	変動係数を用いて異なるデータ間の相対的なばらつきを比較し、3シグマ法を用いて異常値(外れ値)を特定できる。	予習:教科書第5章の後半を読み、「偏差値」の仕組み(標準化)について調べておく。 復習:演習データ(商品規格や売上)に対し、外れ値判定や変動係数の計算を行い、結果の解釈をまとめる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
7	2変数の関係性(相関分析) 2つのデータ間にある関係(正の相関・負の相関)を分析する手法を学ぶ。散布図の作成と「相関係数」の計算を行い、関係の強さを数値で評価する。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	散布図を作成して視覚的に傾向を確認し、相関係数を算出して2つのデータ間の関係性を正しく説明できる。	予習:教科書第6章を読み、「相関関係」と「因果関係」の違いについて整理しておく。 復習:演習で扱ったデータ(価格と販売台数など)の相関係数を再確認し、ビジネスにおける活用場面を考える。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
8	単回帰分析(予測の基礎) 1つの要因(説明変数)から結果(目的変数)を予測する単回帰分析を学ぶ。最小二乗法の概念と、回帰直線の式の求め方、決定係数( $R^2$ )による精度の評価方法を習得する。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	散布図に回帰直線を引き、Excelの分析ツールを用いて単回帰式を求め、将来の予測値(売上等)を計算できる。	予習:教科書第7章を読み、「 $y = ax + b$ 」の一次関数の式と、相関分析との違いを整理しておく。 復習:演習で行った広告費と売上のデータを用い、異なる広告費を投入した場合の売上予測をシミュレーションする。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	重回帰分析1(多変量解析の基礎) 複数の要因(説明変数)を用いて結果を予測する重回帰分析を学ぶ。偏回帰係数の意味と、モデルの当てはまりの良さを示す自由度調整済み決定係数について理解する。	演習	複数の変数(例:駅からの距離と築年数)を用いた重回帰モデルを作成し、各変数が結果に与える影響度を説明できる。	予習:教科書第8章を読み、単回帰分析の限界(要因が1つだけの場合の不十分さ)について考えておく。 復習:演習課題の出力結果(P値や係数)を見直し、どの変数が統計的に有意であるかを確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
10	重回帰分析2(数量化I類・ダミー変数) 「天気(晴・雨)」や「曜日」などの質的データを「0」と「1」の数値(ダミー変数)に変換し、回帰分析に組み込む「数量化I類」の手法を学ぶ。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	質的変数をダミー変数に変換して重回帰分析を実行し、天気やキャンペーンの有無が売上と与える具体的な金額的影響を算出できる。	予習:教科書第9章を読み、質的データを数値化する必要性和「ダミー変数」の作り方を予習する。 復習:質的データを含む複合的な要因(気温+天気+チラシ有無など)を用いた売上予測モデルを作成し直す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
11	回帰分析の応用とビジネスシミュレーション 構築した回帰モデルを用いて、「広告費を〇〇万円増やしたら売上はどうなるか」といったシミュレーションを行い、データに基づいた最適なビジネス戦略(施策)を立案する。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	分析結果(係数)に基づき、費用対効果の高い施策を提案し、その根拠を客観的な数値で説明できる。	予習:これまでの回帰分析の演習データを見直し、売上を最大化するための変数の組み合わせを仮説として立てる。 復習:シミュレーション結果と実際の結果(もしあれば)との乖離要因を考察し、モデルの改善点をまとめる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
12	分析精度の向上(外れ値の検出と処理) 重回帰分析において予測精度を歪める「外れ値」の影響と、標準偏差(シグマ)や標準化残差を用いた検出・除去方法を学ぶ。より信頼性の高いモデルを構築する。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	外れ値が分析結果(R <sup>2</sup> や係数)に与える悪影響を理解し、統計的な基準に基づいて適切に外れ値を処理できる。	予習:教科書第10章を読み、なぜ「外れ値」が発生するのか、その原因(入力ミスや特殊事情)について考えておく。 復習:演習で行った「外れ値除去前」と「除去後」の分析結果を比較し、決定係数がどう改善したかを確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
13	商品企画のための分析1(相対的分析・コンジョイント基礎) お弁当やラーメンなどを題材に、具材や価格などの「属性」が顧客満足度に与える影響を分析する。質的データ(あり/なし)と量的データが混在するアンケートデータの分析手法を学ぶ。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	1アンケート結果から各要素(具材、量、価格など)の重要度を算出し、顧客が何を最も重視しているかを説明できる。	予習:自分がコンビニ弁当を選ぶ際に重視するポイント(価格、ボリューム、具材など)を書き出しておく。 復習:演習結果に基づき、「最も売れるお弁当」の組み合わせを考察し、その理由をデータで説明する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
14	商品企画のための分析2(女子大生向けバッグ開発) 「バッグの購入意向調査」データを題材に、デザイン、機能、価格などの評価項目から、ターゲット層(女子大生)に刺さる商品企画を導き出す。外れ値処理を含めた実践的な分析を行う。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	実際の市場調査データに近い複雑なデータを扱い、ノイズ(外れ値)を除去しながら、根拠ある商品企画を立案できる。	予習:バッグを購入する際に妥協できる点と妥協できない点を整理しておく。 復習:分析モデルを用いて、仮想の新商品スペック(軽さ、デザイン等)を設定し、売れる確率(購入意向)をシミュレーションする。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
15	総合演習・最終課題(コスメ市場分析) 「リップ商品の市場調査」データを活用し、発色・持続性・パッケージ等の要因分析を行う。半期の総まとめとして、データ収集から分析、施策提言までの一連のプロセスを実践する。	演習:実際のビジネスデータを用いたPC操作・実習、データの可視化と客観的な評価、予測モデルの構築とビジネス施策の立案、AIツールの活用とトライアンドエラー(振り返り)	これまでに学んだ統計手法(単回帰、重回帰、外れ値処理)を総動員し、説得力のあるマーケティング戦略を提案できる。	予習:半期の学習内容(特に係数の有意性やP値の解釈)を総復習し、分析ツールの操作を確認しておく。 復習:最終課題のレポートを作成し、データ分析スキルが自身のキャリアにどう役立つかを考察をまとめる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力